

# 処理水 地元との約束どこへ

## 「関係者の理解」得ぬまま

東京電力福島第一原発の処理水の処分が近づく。政府・東電はこれまで「関係者の理解なしに、いかなる処分も行わない」と地元住民に説明してきた。政府は4月、約2年後の海洋放出の方針を決めたが、この「約束」には触れていなかった。政府・東電は「関係者の理解が大前提」というが、理解を得る道筋は見えていない。地元との約束はどこへ。

### 福島原発・海洋放出

2015年1月、福島市内で開かれた政府・東電と地元との委員会。その後、東電も同様の説明をするようになり、野崎合連会長の野崎正隆氏が、会長に宛てた同年5月25日福島第一原発のタンクの水に含まれる放射性物質の濃度を下げてから海に流す可能性について聞くと、経済産業省の幹部は「関係者の理解を得るまで待つ」といった。しかし、今月

### 政府と東電 信頼担保できず

13日に海洋放出を決めた際、政府が示した方針の中に「この約束に関する記述はなかった。」  
15日の福島県志保町の記者会見で、記者(岡田)は地元との約束はどのようなのが質問した。すると、福山氏の隣にいた経産省職員がメモ用紙をすっと福山氏に手渡した。「地元との理解を得られるよう努力を続けていくことが大切だ。」福山氏はメモを目を落として、言葉を切った。「理解を得た」と誰がどう判断するのかを置かれて尋ねると「先の話で申し上げられない」と返すなどとした。  
その後は、東電も同じだった。「約束を得るに十分なものは」東電

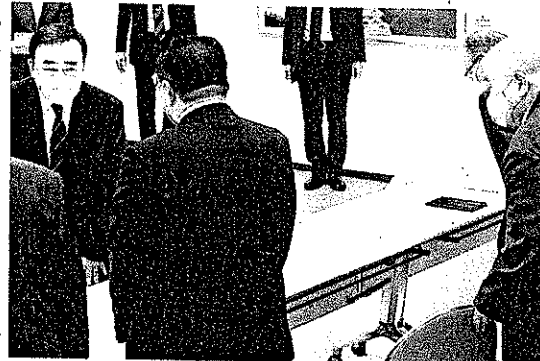
の小阜山智明社長は16日の会見で語気を強めた。しかし、県漁連などが反対したまま放出を始めることはしないかと質問される「理解を得られるよう説明を尽くし、風評被害が軽減されるよう社会を挙げて取り組む」と回答。質問に答えがみ合わなかった。  
さらに「誰が地元との理解を得られたと判断するのか」となると「5秒ほど沈黙が続いた。その後、今の段階で、理解を得られるかどうかのほっと私どもの方ではなんでも申し上げたい」と話すのが精いっぱいだった。  
こうした状況で地元はとうとう諦めたのか。福島県の内堀雅雄知事は16日の会見で語気を強めた。しかし、県漁連などが反対したまま放出を始めることはしないかと質問される「理解を得られるよう説明を尽くし、風評被害が軽減されるよう社会を挙げて取り組む」と回答。質問に答えがみ合わなかった。  
さらに「誰が地元との理解を得られたと判断するのか」となると「5秒ほど沈黙が続いた。その後、今の段階で、理解を得られるかどうかのほっと私どもの方ではなんでも申し上げたい」と話すのが精いっぱいだった。

### 「首相が責任を」

#### 海洋放出 福島知事が面談

福島県の内堀雅雄知事は22日、首相官邸で菅義偉首相と会い、東京電力福島第一原発で増え続ける処理水を海洋放出する政府の基本方針の決定を受け「福島県だけでは、日本全体の問題だ。経理官自身が前に立ち、しっかりと責任を果たしていただくことが重要だ」と伝えた。面談後の取材に明らかにした。

会談で内堀氏は、県民の中には海洋放出への反対意見や、処理水の保管継続を求める声、新たな風評被害への不安があると説明。関係者への丁寧な説明や正確な情報発信のほか、風評対策と事業者支援を進めるよう



福島県志保町の野崎正隆会長(左)と菅義偉首相(右)の面談を終え、あいらする福島県志保町(左)の福島第一原発。菅首相は「関係者の理解なしに、いかなる処分も行わない」と地元住民に説明してきた。政府は4月、約2年後の海洋放出の方針を決めたが、この「約束」には触れていなかった。政府・東電は「関係者の理解が大前提」というが、理解を得る道筋は見えていない。地元との約束はどこへ。

風評払拭への努力を後退させないよう、関係者が一体となり万全な対策を講じるべきだ」と政府に求めた。

菅首相は「いすれの要望も重く受け止める。風評対策はできることは全部やる覚悟だ。リーターシップを發揮し、福島復興に向けて処理水の問題に責任と覚悟を持って臨んでほしい」と答えたという。

政府は16日、処理水を海水で薄め、放射性物質トリチウムの濃度を国の基準よりも大きく引き下げた上で、2年後をめどに海洋放出を始める方針を決めた。ただ漁業者らは風評被害を懸念し、強く反対している。

16日に開かれた処理水の関係閣僚会議に出席した内堀氏は「これまでの復興や